

# 広島商船高等専門学校 流通情報工学科

広島商船高等専門学校は、瀬戸内海のほぼ中央に位置する大崎上島にあり、その前身を明治31年に設立された芸陽海員学校とし、以来約90年にわたり船舶職員を養成することを主な目的として、教育研究の充実をすすめてきております。

この間、昭和26年には商船高等学校に、昭和42年には商船高等専門学校に昇格しました。商船高専に昇格した後は、海事関連産業に従事する実践の技術者を育てるため、5年6カ月の一貫教育を行ないつつ、業界の要請に応えるため、その教育課程の内容を多様化し、発展させてきました。さらに、近年の産業構造の多様化に対応するため、昭和60年度に2学級あった航海学科の1学級を改組し、流通情報工学科が設置されました。既存学科（航海学科、機関学科）との関連から、高専では全国唯一の流通産業に中心を置いた学校となりました。

以下、筆者の所属する流通情報工学科について説明します。

流通情報工学科における教育内容は、大きく分けて2つになります。1つは情報処理に関する教育と、もう1つは流通に関する教育です。

情報処理に関する内容は、1年次におけるFortranを中心とした言語教育から始まり、数値計算や線形計画法などのOR手法に関するアルゴリズムとプログラミングなどを通じて情報処理に関する教育を行なっています。

一方、流通に関する内容は、流通における商品（物）の流れ、すなわち物流の工学的な側面に重点を置いています。具体的には、物流に必要な機器や施設に関する内容、物流対象物の物性に関する内容およびその保存方法に関する内容、また国際物流に関する内容などの教育を行ない、最終学年では物流システムの分析・設計などに関する内容等の教育を行なっています。

この2つの分野を統合し、多くの実験や演習、さらに卒業研究により情報処理技術者、物流システム・エンジニアの養成を目的として5年間の一貫教育に努めております。流通情報工学科は、高専では唯一「流通」と名のつく学科であり、きわめてユニークな学科となっています。また、高専ではめずらしく、本学科の学生の約半数は女子学生となっています。

参考までに、本学科の専門科目のカリキュラム体系図を図1に示します。 (松尾俊彦)

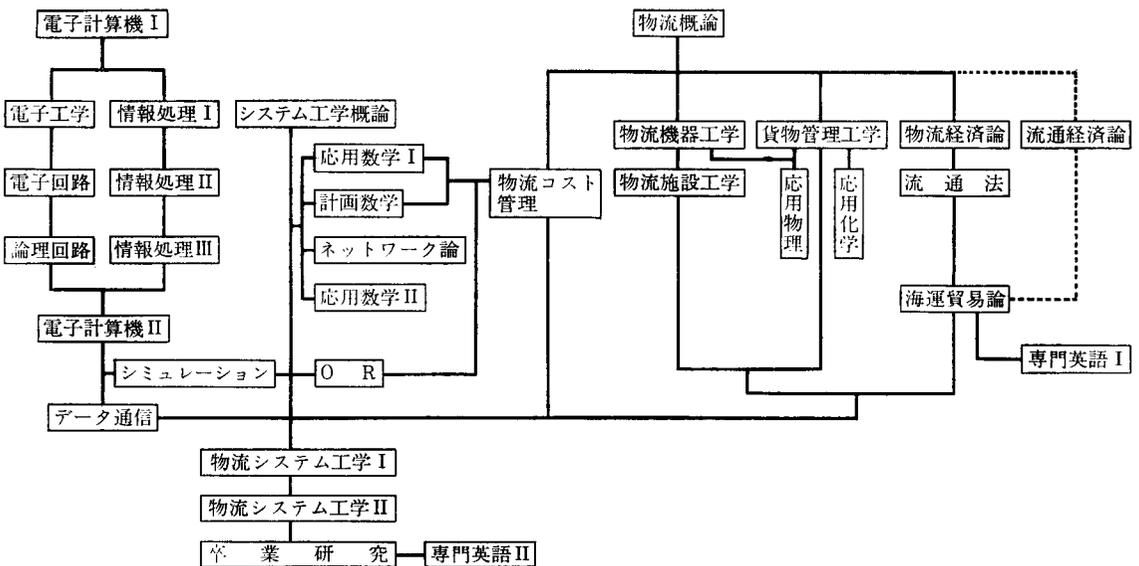


図1 流通情報工学科、カリキュラム体系図